

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4572100859		
法人名	有限会社 ほほえみの里		
事業所名	グループホームほほえみの里	ユニット名	牧水館
所在地	宮崎県日向市東郷町山陰甲697番地5		
自己評価作成日	令和6年12月20日	評価結果市町村受理日	令和7年3月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action_kouhyou_pref_topiigvosvo_index=true
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階
訪問調査日	令和7年1月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設周辺は山に囲まれており、静かで自然豊かな環境の中に位置しています。季節の移り変わりを楽しむことができ、山間部の出身者の方には郷愁を感じることができる雰囲気もあります。コロナ禍を経て、地域とのつながりも少しづつ機会を作っていこうと思っています。施設内行事は2ユニットそれぞれが企画、運営を行って入居者様が楽しめる環境作りを行っています。感染症対策を行いながら、気軽に買物等に出かけることができるよう外出の機会を徐々に増やす取り組みを行うなどフットワークの軽いサービス提供を目指しています。利用者様が気持ちよく過ごせるよう適切な言葉遣いができるよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

協力医療機関とは緊急時対応はもとより、ホームで感染症検査が一斉に行えるよう看護師派遣や、食事指導のため管理栄養士派遣など、協力体制が構築され利用者や家族の安全安心に繋がっている。職員は、理念を指針とした基本方針の実践に繋げるため「できれば身近な存在になり支援したい」との気持ちを持ち、安定したケアサービスの提供努めている。また、フットワークの良いケアサービスの提供をすることで、利用者のやりたいことや行きたいこと等に対し、利用者を待たせることなく要望に添うことを心掛け、利用者の活動意欲改善を図っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほほ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほほ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほほ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない			○	4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほほ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが			○	3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほほ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほほ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほほ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほほ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほほ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほほ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほほ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己 外部	項目	自己評価	牧水館	外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の周知は管内の掲示やパンフレット、ブログに記載している。施設内の全体会議でも理念、基本方針、利用者の権利を毎回唱和を行っており、実践につなげている。	ユニットごとに、理念を指針とした基本方針を全職員で話し合い策定し、ケアサービス提供に反映できているか達成の検証することで、向上に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	回覧板等で地域行事の確認を行っている。地域への行事参加についてはコロナ禍以降、取り組めていないところもある。地域のお店を利用するなどには行っている。近所の方からの差し入れ等も受け取っている。	台風災害時、生活用水として近隣から井戸水を提供して貰ったり、トマトの差し入れを受ける等、地域からの支援がある付き合いを継続できている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の相談については運営推進会議内やブログでも随時受付を行っていることを伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では施設の運営状況や取り組みの報告を行っている。	利用者状況や事故報告など、事業所の状況を細かく報告することでメンバーの理解に繋がっている。ケアが順調に行かない報告に、メンバーから共感の声があり、職員は心情的に助かることもあった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日向市の担当者とは電話や窓口での相談、報告等を行っている。運営推進会議には市の担当者、地域包括支援センター担当者が参加しており、協力体制は築けている。	何でも相談できる関係性の構築はできている。また、市の担当課からの介護改定や研修会の情報提供も頻繁にありケアサービスに生かしたり、職員育成に繋げている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止宣言、指針の整備を行っている。身体拘束適正化について年二回の研修、3か月ごとの委員会、新入職員への研修を実施している。スピーチロックには特に注力しており、委員会でも毎回取り上げており、認知症の方にストレスを感じさせない言葉かけに努めている。	研修を重ね研鑽していることから、物理的な拘束はない。スピーチロックについても当該職員を頭ごなしに注意はせず、また命令にならぬよう、納得いく指導をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないよう注意を払い、防止に努めている	身体拘束適正化と同様に施設内研修、委員会を実施している。身体拘束とも密接にかかわる部分であり、指針の策定、職員への周知を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	牧水館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ユニット内で日常生活自立支援事業、成年後見人制度を利用されている利用者がおられ、職員もそれらの制度に関わる機会をもっている。権利擁護事業についての研修を行ったこともある。必要時は連携や相談を行っていく。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	新規契約については事前見学や説明の機会をもち本契約へつなげている。契約については入所日ではなく事前に説明の機会を設け、疑問点や不明な点に対応できるような体制をとっている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議には家族代表の方に参加いただいている。面会時には話しやすい環境を整えている。新規契約時等には些細なことでも遠慮なく相談してほしい旨を家族に伝えている。ご意見等については全体会議や運営推進会議で取り上げるようにしている。		家族からは、電話や面会訪問時に問い合わせを繰り返したり、何でも言ってもらえるような雰囲気づくりに留意している。出された意見や要望は、速やかに対応するようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の全体会議やユニット会議で職員が意見を上げることができる環境を整えている。直接職員から相談を受けることもあり、話を聞く環境には配慮を行っている。相談内容や意見については代表者へ伝えている。		管理者から積極的に何かないかを問い合わせ職員の意見を聞いている。最近では、経年劣化もありハード面についての意見がよくある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きやすい環境を整える取り組みとして希望休の相談対応、有給休暇の相談対応を行っている。研修やセミナーの案内も行い、意欲向上のサポートを行っている。加算など反映できるものは導入している。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修計画を設定しているが、外部研修への参加状況が少ない現状がある。随時参加を検討している。ON-JT・OFF-JTに対する取り組みを充実させたいと思っている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	宮崎県グループホーム連絡協議会に加盟しており、副施設長が理事として関わっている。地域の研修会や講習に参加し交流の機会は持っているが、現場レベルでの交流の機会は少ない現状がある。			

自己 自 己	外 部	項 目	自己評価	牧水館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所相談を受けたあとに、本人との面談の機会を設けている。本人の緊張や戸惑いが見られることもあり、関係性作りには時間が必要である。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所相談までの経緯や家族の不安な点などを伺い、家族の気持ちや思いも尊重しながら面談を行っている。健康管理や認知症面の相談も多く、わかりやすい説明につとめている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームの薬槍や機能の説明を行い、本人の望む暮らしとの調整を会話を重ね行っている。必要時には他のサービスの説明なども行っている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	業務優先や職員都合の対応にならないように注意している。家事活動など共同で行うことで、生活感をもてるようにしている。職員は家族のかわりではないことは職員にも意識してもらっている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍で面会制限などもあったが、現在は面会対応を行っている、自室での対応も再開している。面会時には経過報告を行っており、必要物品の相談なども行っている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所時のアセスメントで生活習慣についての確認を行っている。本人の希望に応じて外出の機会をもったり、家族だけでなく知人や友人などの面会にも対応を行っている。		自宅近所の方の面会があったり、ユニット間を自由に移動し関係性を継続される方もいる。関係性が希薄にならぬように、ドライブや電話を活用しての支援をしたり、工夫している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同生活であり、個人の性格や意向を反映し気持ちよく過ごせるよう座席なども配慮を行っている。利用者同士が「ともだち」という言葉もでてくる関係性も築けている。			

自己	外部	項 目	自己評価	牧水館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院で退所になるケースであったが、退所後に家族や青年後見人から相談を受けるケースもあり対応を行っている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当介護職員やケアマネージャーを中心に利用者本人の思いや意向をくみ取ることに努めている。モニタリング時に面談を行うことで意向の確認を行っている。本人に確認が難しいときは家族への相談、確認を行っている。		日々の関わりの中で、声掛けを行い把握に努めたり、利用者の表情や仕草から真意を汲み取るなどしている。意思疎通が困難な場合は、家族や関係者から聞くなどして検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時のアセスメントで生活歴等の確認を行っている。情報収集が十分でないケースもあるが、継続して確認を行い、新たな情報については追加を行っている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	施設での生活は毎日同じような状況ではあるが、一人一人の生活に目を向け、把握を行っている。活動への参加の促しなども行っている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネージャーを中心に、モニタリング、アセスメントを行い、定期的にケアプランの見直しを行っている。本人への意向確認を行い、サービス担当者会議には本人、家族や関係者、職員が参加している。家族が都合により参加できないケースもあり、電話やメールを活用している。		計画作成者は、ケアプランが職員の指示書にならめよう配慮し作成している。特に「本人は何をやりたいか」について重視しており、情報収集から「毎日詩吟を歌う」目標を立て、本人の意欲向上に繋げた。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録については見直しも行い、時間軸に沿った記録を行えている。ケアプランのサービス内容を反映した記録は十分でない部分もあり課題ではある。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	生活におけるニーズに対してこたえることができよう努めてはいるが、多機能化という点では十分な対応はできていない。			

自己	外部	項 目	自己評価	牧水館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の活用については課題点であるが、回覧板や運営推進会議などを通して地域資源の把握は行っている。移動図書館の利用を取り入れており、地域に向けて利用を共有できるよう努めて行きたいと思っている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設入所時に主治医の確認を行っており、施設の協力病院の説明も行っている。主治医を変更する場合は本人や家族と十分に協議している。受診支援については本人、家族の意向に応じた対応を行っている。		日々の情報提供等、医師との連携が強固なことや、家族対応が困難なことからホームにて対応することが多い。受診後は、受診報告書にて全職員で確認、周知している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設内に看護職員の配置は行っていないが、准看護師の資格を持った職員がおり、相談を行うこともある。医療面については協力病院の看護師や、かかりつけ医への相談等を行っている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には日向・東臼杵地域入退院支援のための情報共有連絡票を活用している。感染症対策のため、面会が困難であるケースが多く、病院の地域連携室ケースワーカー等と連携し情報収集を行っている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に看取りに関する事前確認書の説明を行い、意向の確認を行っている。意向については変化するものであり、状況に応じて確認を行うことも説明している。施設では看取り介護は体制面から困難であることを説明し、協力病院や医療機関での対応も選択肢のひとつであることを伝えている。		協力医との密な協力体制があり、医師に相談しながらカンファレンスを行うなど、関係者と重度化や終末期の方針の共有を行っている。現在、看取りは行っていないが、入居時の書面での説明や、その都度の話し合いで支援の共有を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを整備している。定期的な訓練は行っていない。報告、連絡、相談の重要性については職員へ伝えている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火管理者を任命している。非常時の業務継続計画（BCP）の作成も行っている。避難所としては地域の協力も頂いている。夜間想定の大規模訓練実施が課題である。		台風災害時の生活用水の提供や避難場所として公民館の提供など、地域の理解を得て協力体制はできている。また、非常食や非常用備品の備蓄も整備されている。	

自己 外部	項目	自己評価	牧水館	外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーへの配慮は利用者の権利として組み込んでいる。虐待防止研修でもプライバシーへの配慮については取り上げている。言葉遣いについては特に注力しており、定期的にスピーチロックについて取り上げ意識向上を図っている。	職員主導にならぬように気を付けながら対応している。職員の気になる言葉かけや行動に対しては、管理者が繰り返し指導して改善に繋げている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意見や意向を尊重できるような言葉かけを行うよう努めている。選択することができる状況づくり、本人が意思決定できる機会を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日の日課はあるが、強制することなく利用者本人のペースに沿えるよう努めている。日課の理解が難しい利用者の中にはおられるが声掛け促しを行っている。食事や入浴は一定の対応にはなっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えが自分で行える利用者は居室で自由に着替えを行われているが、その他の利用者についても本人に着たいものを選んでもらったりしている。整容については本人の希望にそって散髪の支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人一人の嗜好を確認しており、嫌いなものは代替品で対応を行っている。誕生日には希望食を確認し提供している。家事活動についてはできる方には手伝ってもらっているが、食事の仕込みを行うことが少なくなっている。	彼岸にはおはぎ作りや、クリスマスにはケーキ作りを行うなど、四季の食を楽しむ工夫もしている。知り合いの鮮魚店の協力を得て刺身の提供は、利用者から喜ばれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	以前、管理栄養士にプロデュースしてもらったメニューをベースにしているが、摂取状況や嗜好に合わせてメニューのアレンジを行っている。糖尿病や腎機能低下の方には塩分制限や糖分制限の説明を行い実施している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性についてはサービス担当者会議やユニット会議で繰り返し職員へ伝えている。毎食後の声掛けや誘導を行い、全利用者実施できている。歯科への定期受診を行っている利用者もあり、受診支援を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	牧水館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄状況についてはアセスメントで把握を行っており、職員への周知もできている。状況については介護職員からも報告や相談があがっており、一人一人の状況に応じた対応を行っている。パッドの使用や定期的な声掛け、プライバシーへの配慮を行い、利用者が排泄の不安なく過ごせるよう支援を行っている。		排泄チェック表を利用して、声かけ誘導を行い全員布パンツや紙パンツを使用するなど、排泄の自立支援に積極的に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況については毎日確認を行っている。必要時には医師に相談を行い、下剤の調整を行っている。日常生活でも水分摂取状況に注意している。ヨーグルトや牛乳などの活用も行っている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は職員配置や業務との兼ね合いもあり、一定の時間帯で実施している。1日平均約3名の対応で実施している。順番にこだわる方もおり、配慮を行いながら対応している。		入浴拒否があっても、利用者本位に心掛け柔軟な対応を心掛けている。季節を感じるゆず湯やしょうぶ湯の提供もあり、入浴を楽しめるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ホールにはソファを設置し、一人一人が過ごしたい場所でゆっくりできる環境を整えている。傾眠がみられる方については居室で休むよう勧めている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報は毎回受診ごとに更新しており、確認後は利用者台帳にファイルし、いつでも確認できる体制を整えている。受診報告書に薬剤師のコメント欄を設けている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	清掃や洗濯物干し、たたみものなど家事活動を中心に、できる活動には参加を促している。読書が好きな方には移動図書館で本を借りたり、雑誌等を購入したりしている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設周辺の散歩は随時行っている。感染症対策もあり、状況に応じて外出支援は行っている。春や秋にはドライブの実施も行っている。家族や地域の方と連携して出かけることはなかった。		利用者の希望に沿い、いつでもホーム庭先や近隣の散歩を行っている。また、季節を楽しむドライブや買いものを楽しむドライブを行うなど戸外に出れるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	牧水館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭を所持したい意向のある方については対応を行っているが、紛失のリスクもあることは家族や成年後見人へ説明を行っている。生活費については小口現金を事務所で管理しており、必要時には対応を行っている。金銭管理状況は定期的に家族、成年後見人に送付している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けたり手紙を送る希望の相談は聞かれない。施設にかかってきた電話については取り次いでいる。手紙も以前は返事を書かれていた方がいたが、身体機能の低下とともに送られなくなっている。年末には家族あてに年賀状作成を行っており、スタンプの活用も行っている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた工作や作品作り、花や植物の展示を行い季節感を演出している。ホールは電灯の関係もありやや暗い感じではある。太陽光の反射や西日の差し込みなどに配慮している。		ユニットごとに、利用者が使い易いようテーブルやソファが配置され、管理された空調設備のもと居心地よく過ごせるよう工夫されている。また、玄関ホールには、小型のテーブルと椅子が配置され来訪者とゆったり過ごせる工夫もある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはソファを2台設置し、一人一人がゆっくりと過ごせるような環境を整えている。コロナ禍以降、テーブルにはパーテーションを設置しているが、利用者からの不満等は挙がっていない。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居契約時に必要物品の準備リストを手渡し説明を行っているが、使い慣れ親しんだ物品や思い出の品は持参しても構わない旨も伝えている。アセスメント時に自宅環境等の確認を行い参考にしている。		馴染の寝具や写真など思い出の品を持ち込み、利用者の居心地の良さや安らぎが得られる配慮がなされている。また、利用者と共に清掃や整理をし、気持ちよく過ごせるよう努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	認知症による機能低下については掲示などの方法でフォローを行っている。リスクマネジメント面でも環境要因を考慮するよう指導を行っており、必要時には環境改善を行っている。			